

# 平昌オリンピック公式サイトの世界地図から日本列島がカットされた件の地図投影法的考察

2017年9月27日

(一財) 日本地図センター

相談役 田代博

標記の件を報じた「ハフポスト」の「世界地図から日本列島をカット 平昌オリンピック公式サイト」([http://www.huffingtonpost.jp/2017/09/26/word-map-except-japan\\_a\\_23224108/](http://www.huffingtonpost.jp/2017/09/26/word-map-except-japan_a_23224108/))より引用します。

=====

2018年冬に韓国で開催予定の平昌（ピョンチャン）オリンピックの公式サイトに、日本列島とサハリンが描かれていない世界地図が掲載されていた。ネット上で問題視する声が相次いだ後、9月27日正午ごろ、該当する地図に日本列島とサハリンが追加された。

問題の地図が掲載されたのは、11～15歳の少年少女が冬季スポーツが体験する「ドリーム・プログラム」という企画を紹介するページの英語版だ。

この企画に2004年から10年間で「75カ国 1574人が参加」とした上で、各地域の参加者数を示した世界地図が掲載されている。

地図では、キューバ、マダガスカル、フィリピン、スリランカ、インドネシアなど主な島国は描かれていたが、日本列島とロシアのサハリン島はカットされていた。

=====

「9月27日正午前に掲載されていた地図（部分）」が掲載されていたので、それに、想定される図法で描いた地図を重ねてみました（グレーや青を濃くしています）。



図1 (地図は地図投影法ソフト ジオスタジオにより描画)

ジオスタジオでも、日本やサハリンを消しています。

インドシナ半島、フィリピン、インド東部はややずれますが、まずまずでしょう。

実はこの地図の元になった投影法は、ロビンソン図法と思われます。

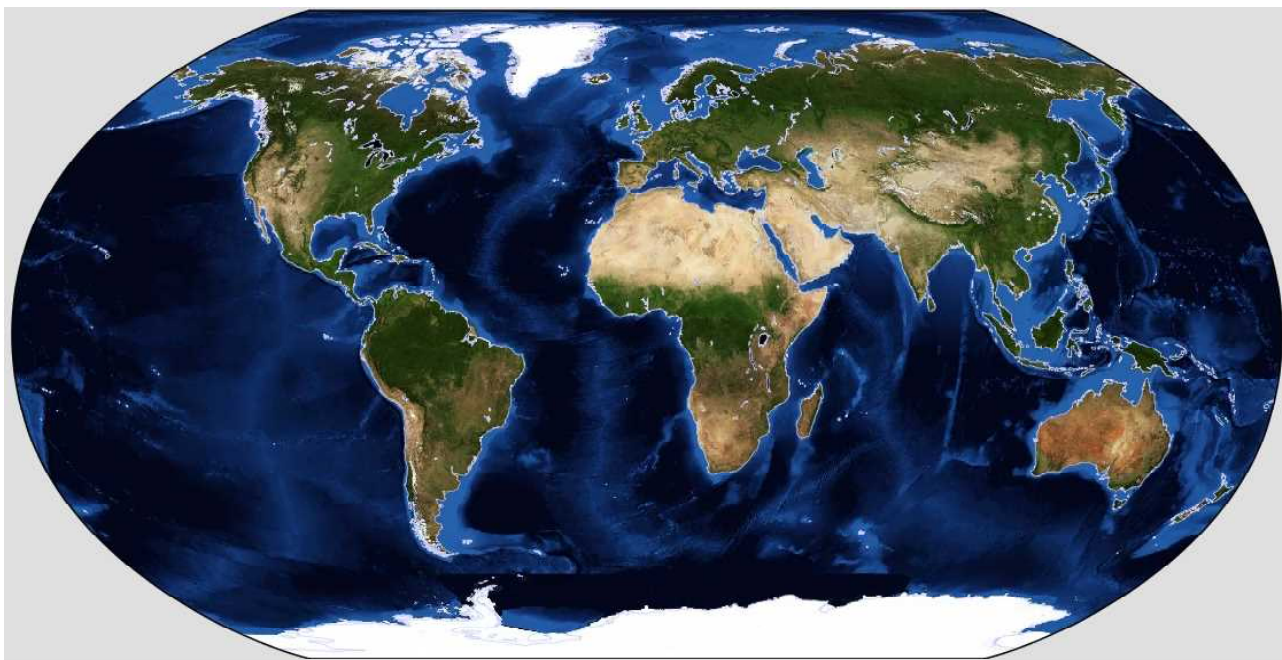


図 2 (G.PROJECTOR により作図)

念のため、ロビンソン図法について、小著『知って楽しい地図の話』から記します。

「アメリカのロビンソンが1963年に考案したロビンソン図法…。擬円筒図法の一つで、全体としての歪みが少なく、ランドマクナリー社やナショナルジオグラフィック協会の地図帳に使われてきました」。

9月27日正午ごろに修正された地図（現在、ウェブサイトに掲載されているもの <https://www.pyeongchang2018.com/en/dream-programme>）とロビンソン図法を重ねたのが次の図3です（地図はジオスタジオにより作製）。

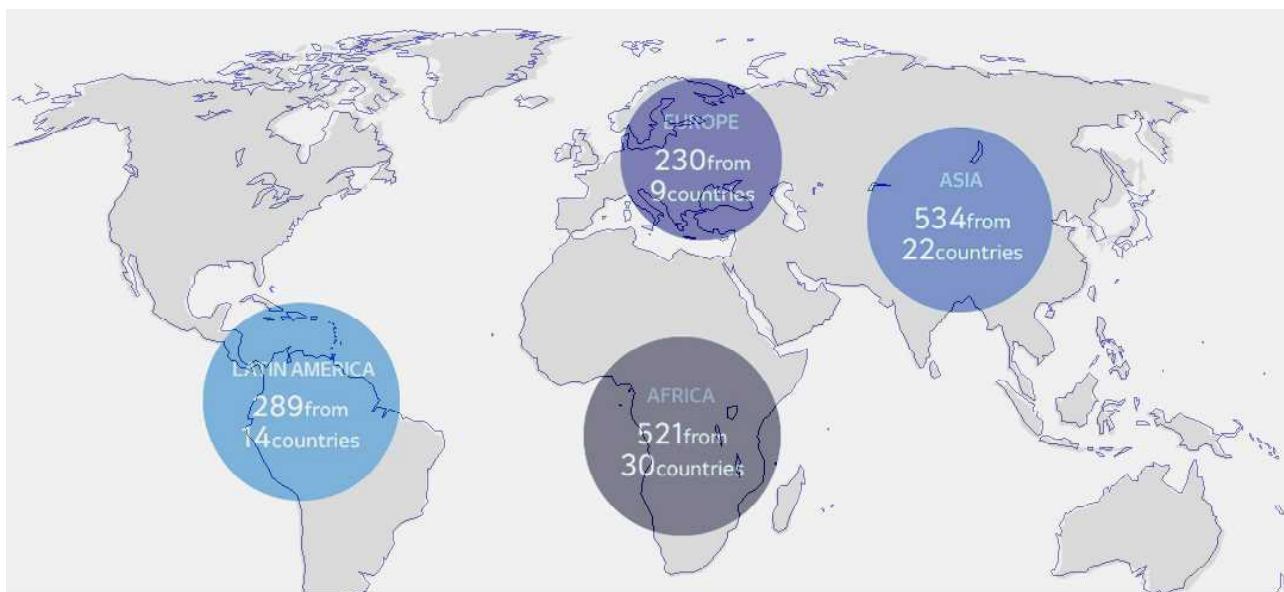


図 3

日本周辺はともかく、全体としてほぼ一致していると考えてよいでしょう。

それにしても、不可解なのはカットしたことです、さらに復元にあたってなぜ元通りにしなかったのか、ということです。つまり、オリジナルのロビンソン図法を使わなかったのかということです。早く復元しなければとあせり、原図を探し出せなくて、急遽「適当な」地図をくっつけてしまったのでしょうか。

図3でも、その杜撰さは分かりますが、「9月27日正午ごろに修正された地図（部分）」をベースしてアップで見てください。



図4 (ジオスタジオで作製)

本来の形（青い輪郭線）と追加分のズレがあまりに大きく、不自然です。おかしいということに気づかなかったのでしょうか。

それとも地図はどこでも同じという認識だったのでしょうか。

限られた範囲でしか見ない文書ならともかく（それでもダメなものはダメですが）、インターネットで世界中に公開される時代です。地図リテラシーの欠如が誰の目にも明らかになってしまいます。

何図法で日本周辺の図を作製し、くっつけたのでしょうか。意味の無い考察ですが、念のため行ってみました。



図 5

あまり特殊な図法を使っているとは思えません。試行錯誤したところ、正距円筒図法がほぼ一致しました。

●まとめ

1. ピョンチャンオリンピックの公式サイト（「ドリーム・プログラム」という企画を紹介するページ）の世界地図は、ロビンソン図法により描かれている。
2. その地図から何故か日本やサハリンが消されていた。
3. 復活したが何故か、不自然な形で描かれている。日本やサハリンの部分だけ、正距円筒図法で作製した地図を接合した可能性が高い。
4. 地図投影法についての知識を深め、正しい地図表現を行うことが必要である。

※思い違いが多々あるかもしれませんが。所属する組織とは全く関わりない田代個人の見解です。